

	中期経営目標概要	短期経営目標概要	具体的方策の例示	概要	設 問	1学期			2学期			平均			学校 運営 協議会	概要	評価 1 2 3 4 5	学校運営協議会 ご意見・感想など		
						生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員						
基 礎 基 本 を 活 か し 探 究 す る 学 習 者 の 育 成	主体的に学ぶ姿勢を重視し、協働的な学びと個別最適な学びの相乗効果を図り、基礎基本を活かし、自ら課題を見出し解決を図る探究する力や課題解決力を養う。実社会に生きて働く学力を培い、将来の自立的な学習者を育成する。	生徒が自ら学習意欲をもって学習の目標・課題を見出しを持ち振り返りを行いながら、主体的・自立的に学習を進める姿勢を養う。 生徒が自ら「問い」を発し「課題」を立て、自分なりの方法で、自分なりの答えを見出す「探究力」を養う。 学習課題に向けて自ら考えを形成しながら、対話的・協働的に学びを深める力を養う。 新たに社会や学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用することにより、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る。 学習課題に向けて、ICTを活用するなど、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく個々の生徒の特性とニーズに応じた「個別最適な学習」を実現し、個々の資質・能力の効果的な育成を図り課題解決力を養う。 生徒が自己のキャリア形成を日々の学びの中で自覚し、さらに将来、主体的に社会に参画し自己実現を果たせるよう、自己のキャリア形成を意図的に図れる資質・能力を培う。	授業目標・課題を明示し、生徒の興味を引き出し、終末の振り返りの過程で生徒の達成感が得られる授業の工夫・改善を行う。常に生徒の視点に立ち、生徒主体の学習活動を展開する。 生徒が自ら「問い」を発し「課題設定」→「情報収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」→「考えの更新」→「あらたな問い・課題設定」→という探究過程をスパイラルに巡り、学習を深め、探究方法を身につける。 ファシリテーションの手法等を活用し、各教科領域において、ペアワークやグループ学習を活性化させ、対話的・協働的に学びを深める授業を展開する。 生徒がICT端末を学びの手段として横断的かつ日常的に活用することで、新しい多機能な「文房具」として自由な発想で活用できるような環境を整え授業をデザインしていく。生徒がICTを適切・安全に使いこなす情報活用能力の育成、及び情報モラルの育成を図る。 ICTやタブレット端末を効果的に活用するなど一人一人の学習ニーズや学習スタイルに応じた個別最適な学習を可能にする支援・指導を行う。生徒自身が自らに合った学習の進め方や学び方を考えたり、選択することができるように支援・指導する。 生徒自身が各教科や学校の学びを、将来に役立たせ自己のキャリア形成に生かせるように指導の工夫を行う。キャリア・パスポートの効果的な活用により生徒の自己理解と自覚的・意図的なキャリア形成を促し支援を図る。	自ら学ぶ意欲	1	4.3	4.0	4.2	4.4	4.0	4.3	4.3	4.0	4.3	自ら学ぶ意欲	4.8	「問いが深い」と大層、調べる精神が大層、自分なりの問いをもちあきらめず、何があるかを自分からとらえていくという姿勢など、学びがあるという目標や学習の達成感などよく出ています。 積極的に発言し、いろいろな工夫で取り組んでおり、いい学校だなと思います。			
				探究力	2	4.1	3.5	4.1	4.2	3.5	4.2	4.1	3.5	4.2	4.3	探究力	4.3			
				協働的な学び	3	4.2	3.7	4.0	4.4	3.7	4.3	4.3	3.7	4.1	4.1	協働的な学び	4.3			
				ICT機器の活用(学校内)	4	4.3	3.7	2.8	4.4	3.7	4.0	4.4	3.7	3.4	4.4	3.7	3.4	ICT機器の活用(学校内)	4.0	「先生が積極的に活用している」と、タブレット・パソコンも活用している。 「ICTは授業の理解の助けになり、授業が楽しくなる」と、授業で活用している。「国語など」もタブレットで活用しているほか、教師が積極的に活用できるタブレットも活用している。
				ICT機器の活用(家庭内)	5	3.6	3.5	2.6	3.6	3.2	3.1	3.6	3.3	2.9	3.6	3.3	2.9	ICT機器の活用(家庭内)	3.3	タブレットが活用できるようになり、授業についていくのに役立っている。
				個別最適な学び	6	3.9	3.3	4.0	4.0	3.3	4.2	3.9	3.3	4.1	3.9	3.3	4.1	個別最適な学び	4.0	「先生が授業の進め方が定まっている中で定まっている学習の仕方」 「いろいろなツールやソフトの活用が自分から進んでいく授業に役立っている。」
				キャリア形成自己実現	7	4.1	3.8	4.3	4.2	3.8	4.3	4.1	3.8	4.3	4.1	3.8	4.3	キャリア形成自己実現	4.3	「何でも挑戦し、経験もたくさんすることで、本人の成長が実感につながっている。」
豊 か な 人 間 性	あたたかな環境と信頼関係のもと、互いの個性や人格を尊重する心や自他のよさを引き出し高め合える「豊かな人間性」を育む。人格教育と道徳教育の充実を図る。 いじめ防止対策推進法に基づき、学校・地域住民・家庭その他関係者の連携の下、いじめの問題克服に向けて取り組みを行う。	あたたかな環境と信頼関係のなかで、互いの人格を尊重し、自他ともに大切にする「思いやり」の心を育み「豊かな人間性」を培う。 深い生徒理解に基づく生徒指導を推進し、いじめ撲滅と予防に向け、アンケートを行い、情報を収集し早期の対応を図る。生徒会活動等を通して、意識の向上を図り困っている人を見逃さず声を掛けて助けられるような生徒の育成を行う。 生徒一人ひとりが自らの個性やよさに気づき、さらに他者の個性のよさや個性を認め互いに高め合えるように、教育相談の充実を図る。	思いやり	8	4.3	4.2	4.3	4.5	4.3	4.3	2.2	4.2	4.3	思いやり	4.8	「先生が笑顔から見てくれる。」 「自分の心を他人に伝え、理解を促すこと、役に立つ、仲良くすること、これらがよくできているから、自分も自信を持っていろいろな取り組みが出来るから良い」と思う。				
			良好な人間関係	9	4.4	4.3	4.1	4.5	4.3	4.4	4.4	4.3	4.2	4.4	4.3	4.2	良好な人間関係	4.8	「先生が話をよく聞いてくれると安心できるからよく話を聞いている。」	
			教育相談	10	4.3	4.0	4.6	4.3	4.1	4.6	4.3	4.1	4.6	4.3	4.1	4.6	教育相談	4.8	先生が理解していることが、 -問題を解決し、多様な取り組みが実現しているという。	
健 全 な 心 と 体 力	粘り強い意志、意欲、実践力の基盤となる健全な心と体を育成し、ものごとを主体的・自立的に粘り強くやり続ける力、最後までやり抜く力・体力を培う。 各教科・領域において体力増進、心身の健康、食育など、健康に関する指導の充実を図り、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送れるように支援を行う。	係活動や委員会、行事等の生徒主体の活動を通して、生徒が自ら企画・運営し、生徒が積極的に参加し取り組める場面を多く取り入れる。その課程で達成感や自己肯定感を育み、生徒が自主的に行動し最後までやり抜ける、やり抜く力を培う。 保健体育や体育の行事において、生徒の基礎体力の向上を図り、また毎月発行の保健だよりや外部講師の活用、日々の給食を通じた食育を通じて生徒の健康意識を高め、健康教育を推進する。	生徒主体の活動 やり抜く力	11	4.3	4.2	3.9	4.5	4.1	4.3	4.4	4.2	4.1	4.1	生徒主体の活動 やり抜く力	4.5	「認めるところや達成した瞬間が充実感で、達成感も認められる瞬間も嬉しい。」			
			健康体力	12	4.3	3.9	3.8	4.4	3.9	3.9	4.3	3.9	3.8	4.3	3.9	3.8	健康体力	4.0	「運動、食事、健康の大切さを、健康であるという思いが大事で、どうすれば健康かを自分から考えていきたい。」	
			正しい判断	13	4.4	4.3	4.4	4.5	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4	正しい判断	4.5	「正しい判断が大切だと、どうして必要な時に、自ら、一歩踏み出せるようになるまで、」	
規 範 意 識 形 成 力	様々な集団活動を通して、生徒が自ら集団や社会のよさや規範の意義を理解し責任と役割を主体的に果たせるように支援を行う。また、働く人々から直接あるいは間接的に学び、社会に貢献する意欲・意識を培う。挨拶運動・ボランティア活動等の体験を通して社会貢献に貢献する心や社会貢献の基本的行動を身に付けられるように支援する。	物事のよし悪しの判断を生徒主体の集団活動の中で身に付けられるように支援する。生徒の自主・自律を目指し、正しい判断に基づきながら、自らを生かす責任ある行動がとれるように支援を行う。 授業の始めや終わり、来校者へのあいさつ、普段から活発なあいさつが交わされるよう支援する。よりよい集団を目指し互いの意見を調整しルール等をつくり合う経験から、規範意識の醸成及び社会形成力を培う。 職業学習等を通して地域に働く人々の役割・社会的貢献力を身近に学び、地域と協働する意欲・意識を培う。「西東京ふるさと探究学習」や挨拶運動・ボランティア活動等の体験を通して、地域協働・地域貢献の基本的な行動の仕方を学ぶ。	あいさつ 規範意識	14	4.4	4.1	4.3	4.4	4.0	4.3	4.4	4.1	4.3	4.3	あいさつ 規範意識	4.8	「先生たちが話し掛けることで、自分も話し掛ける機会があり、これからは話し掛けたらいい。」			
			地域と協働する力	15	4.1	3.7	3.5	4.1	3.7	4.3	4.1	3.7	3.9	4.1	3.7	3.9	地域と協働する力	4.3	「地域貢献は、地域とつながりながら課題意識の醸成が大切で、これからは地域貢献していきたい。」	
働 き 方 改 善	業務改善を進め、ライフワークバランスを意識した働き方を推進する。	業務改善について教職員の意識改革を図り、ライフワークバランスの改善を促す。	担当する業務の改善、効率化、またライフワークバランスなどについて、自己申告に具体的な目標を示し、取り組む。	業務改善 ライフワーク バランス	16	/	/	3.2	/	/	/	/	/	3.4	3.3	業務改善 ライフワーク バランス	3.0	「できる範囲で頑張っている。」 「自己申告なので、目標は高いですが、無理なく進んでいく。」 「仕事も私生活も両立するために、職場の業務改善に積極的に関与しており、タイムとワークを分けられるのがいい。」 「業務改善の推進の中で、ライフワークのバランスを取ることは難しいのではないかと考える。業務改善を進める中で、業務改善の推進が、業務改善の推進に、取り組むことが大切ではないかと考える。」		